

2月4日(水) 本年度第29回(通算2764回)

「世界理解と国際奉仕」

担当/国際奉仕委員会

12:30～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

山辺 文彰君 (第7分区ガバナー補佐)、濁沼 英一君 (釧路東RC IM実行委員長)

小家山 勝君 (弟子屈RC)

春日 賢二君、沢田 雅仁君、吉田 一夫君、池田 圭樹君、石森 伸夫君、漆崎 隆君、遠藤 好彦君

川上 光彦君、成田 育夫君、平野 正則君、森 圭一郎君、渡辺 雅樹君 (以上12名 釧路ベイRC)

◆メーキャップ

1/30 萩原 昭博君、坂入 信行君、石井 東洋彦君、小野寺 英夫君、菊池 美恵子さん、北川 健二君  
高橋 邦弘君、多田 洋平君、丹葉 一恵さん、中嶋 嘉昭君、中島谷 友一朗君、平井 昌弘君  
本間 明美さん (以上13名 釧路南RC) 1/21の出席率修正へ

2/3 田村憲一郎君 (釧路ベイRC) 1/28の修正出席率へ

◆出席報告【会員総数69名 免除5名 出席計算に用いた会員数69名】

本日の出席率 出席者29名 メーキャップ0名 出席率42%

前々回の修正出席率 出席者31名 メーキャップ13名 出席率63.8%

◆ニコニコ献金

- ・ようこそ! 集団メーキャップありがとうございます ~萩原 昭博君
- ・山辺ガバナー補佐、IM実行委員長、ベイロータリーの皆様よろしくお願ひ致します ~坂入 信行君
- ・50歳になりました。がんばります ~妹背 俊紀君
- ・高橋委員長、プログラム宜しくお願ひします ~大友 淳君
- ・スタンプラリー参加、有難うございました。バースデーソング有難うございました ~菊池 美恵子君
- ・入会記念日です ~北川 健二君
- ・多くのロータリアンの皆様ようこそいらっしゃいました。ついでに結婚記念日です ~富樫 孝之君
- ・誕生日です。ありがとうございました ~山本 大介君

◆会長挨拶

皆様こんにちは。本日は第七分区・山辺ガバナー補佐始め、大勢のロータリアンに御来訪頂きまして、誠にありがとうございます。そして何よりも、ベイロータリークラブ成田パスト会長の元気なお姿を拝見出来て、大変うれしく思います。

2月は世界理解月間です。国際ロータリーは世界平和も推進しているわけですが、本日斉唱致しました奉仕の理想にも歌われておりますように、私達の願ひは久遠の平和であります。

先週末、日本だけではなく世界をも震撼させるニュースが飛び込んできました。非常に残念でなりません。2015年を迎え今年で終戦70年を迎えるわけですが、先月の新聞にこんな記事が載っております。アウシュビッツ強制収容所が旧ソ連軍に解放されてから1月27日で70年を迎え、ポーランドアウシュビッツ強制収容所跡でアウシュビッツの生還者300人と関係者、ドイツのガウク大統領、フランスのオランド大統領ほか、各国の首脳が出席し犠牲者の追悼を行ったわけですが、その中で、生還者の言葉として「私たち生還者は皆ドイツもドイツ人も憎んでいる生還者おりません。ポーランド人であれドイツ人であれ良い人も悪い人もいます。ドイツ人を恨んでも何も解決にはなりません。ではなぜこのような悲劇が起きたのか、憎むべきは人種や宗教で対立をあおるプロパガンダだ」と言っております。「70年たった今でも、人類は戦争や残虐な行為を繰り返しています。アウシュビッツを教訓として学んでいないのは非常に残念でならない、歴史を学びプロパガンダに流されずに、自分で考え、自分の良心に従って行動することを一人一人が身につけてほしい」と言っております。

まさに今がそういう時にきているのではないのでしょうか。ロータリアン120万人の願ひの一つ世界平和でもあります。

本日は当クラブ高橋 哲也国際奉仕委員長に講話をお願いしております。宜しくお願ひ致します。

## ◆幹事報告

- ・能登委員長より、「ロータリーの友」にロータリーデーとして当クラブ主催の少年サッカー事業を投稿して頂きました。「ロータリーの友」より掲載依頼に対するお礼の葉書がクラブに届いております。
- ・南クラブ様の佐藤 玄史会長が大病をされ、復帰のめどが立たないと言う事情により、12月にて退会の運びとなり、下期1月より正式に副会長であり、会長代行でもあります長倉 巨樹彦君が会長、高橋 康成君が副会長となり、クラブ運営を行うと言うご報告、ご挨拶文が届いております。
- ・根室RC様より会報、並びの各クラブ様より2月の例会プログラムが届いております。
- ・1月18日からサンディエゴにて国際競技会が始まり、本会議にてKR. ラビンドランRI会長が次年度テーマ“世界へのプレゼントになろう”と発表されたと言う報告が東堂ガバナーエレクトより葉書が届いておりますので以上、4点を回覧させて頂いております。
- ・ロータリー文庫運営委員会より、ロータリー文庫をさらに利用しやすいものとする為、クラブのホームページにリンク窓口を貼り付けて頂けるよう依頼がありましたので早速、本間委員長に対応して頂きました。クラブのHPからロータリー文庫ホームページに入りやすくなりましたのでご利用・ご活用下さい。
- ・米山記念奨学会より御寄付頂いた、萩原会長、足立PDG、小野寺直前、佐渡エレクト、小松理事、中嶋理事に確定申告用領収証が届いておりますので後程お渡しします。
- ・また、ロータリー財団よりご寄附頂いた、田野副幹事・丹葉会員にも届いておりますのでこちらも後ほどお渡しします。
- ・先ほど高橋委員長よりご説明がありました、家庭集会の件ですが、召集者は開催日時と場所を私の方までご連絡下さい。尚、自班に出席できない場合は、他班を紹介しますので宜しくお願いします。

最後に、出席委員会が本年度取り入れましたメーキャップスタンプラリーでございますが、第5回目を1月30日行い、南クラブ様へ会員12名で参加してまいりました。その参加者は次週の週報の方に記載させて頂きます。出席率はクラブ評価につながります。こうした形で出席率を上げる努力をしておりますが、やはり自クラブでの出席率を上げる事が一番であります。これらかも努力してまいりますので下期、皆様のさらなるご協力をお願いして幹事報告とさせていただきます。

## 世界理解と国際奉仕



高橋 哲也 会員



いうまでもないことかもしれませんが、ロータリークラブは、1905年シカゴの青年弁護士ポールハリスによって提唱され発足しました。日本のロータリークラブは1920年（大正9年）、東京で設立されました。この発足したロータリークラブは、現在200以上の国と地域に広がり、クラブ総数約3万4000、会員総数120万人に達する世界的規模の奉仕団体となっております。世界中にクラブをもつロータリーの今があるのは、1905年の創設時から変わりゆく世界のニーズに応えてきた奉仕の歴史があるからです。

この奉仕の歴史は、ロータリーのプログラム、プロジェクトとして、具体的な文化交流活動、人道的奉仕活動、教育活動として行われてきました。そして、その中でも、壮大なプログラムとして世界中の子供たちにポリオに対する予防接種を実施するというプログラム、ポリオの撲滅を目的としたプログラムに取り組んでおります。これまでのロータリーの取り組みにより、ポリオの撲滅は99%達成されている状況にあり、あと1%を残すのみとなっております。今、ロータリーは、あと少しで達成されるポリオの撲滅に力を注いでおります。当クラブにおいても募金箱を設置し、ポリオ撲滅のための協力を惜しんでおりません。本例会においては、このポリオとポリオの撲滅に向けてこれまでロータリーが取り組んできた歴史について、報告したいと思っております。

## ポリオとは

まず、ポリオについて説明いたします。ポリオ(Polio)とは、急性灰白髄炎(きゅうせいかいはくずいえん、poliomyelitis(ポリオマイアライティス)といい、ピコルナウイルス科、エンテロウイルス属のポリオウイルスによって発症するウイルス感染症のことをいいます。一般にポリオと呼ばれていますが、ポリオとはこのPoliomyelitis(ポリオマイアライティス)の省略形です。ポリオウイルスが原因で、脊髄の灰白質が炎症をおこします。はじめの数日間は胃腸炎のような症状があらわれますが、その後1%以下の確率で、ウイルスに関連した左右非対称性の弛緩性麻痺(下肢に多い)を呈する病気です。

一般には脊髄性小児麻痺(略して小児麻痺)と呼ばれることが多いが、これは5歳以下の小児の罹患率が高いためです(90%以上)。日本では、1960(昭和35)年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりました。しかし、1980(昭和55)年の1例を最後に、現在までポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。また、2012(平成24)年9月1日から生ポリオワクチン(ごくまれにワクチンウイルスによる小児麻痺がおこる)の定期予防接種は中止され、不活化ポリオワクチンの定期接種が導入されました。

世界では、1988年の記録になるのですが、世界125カ国において年間35万症例が発生しておりました。もちろん、1988年以前では、より多くの症例が発生しておりました。

では、このポリオに対し、ロータリーはどのように取り組んできたのでしょうか。

## フィリピンで最初のポリオワクチン接種活動

国際ロータリー(RI)の1978年4~5月の理事会は「保健、飢餓追放および人間尊重補助金プログラム(Health, Hunger and Humanity Program)」、いわゆる3-Hプログラムを設立し、これは1979-80年度にロータリー財団に引き継がれました。このプログラムの目的は、国際間の理解、親善および平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展をはかることにあります。

1979年の初め、フィリピンのザビノ・サントスパストガバナー(1970-71年度)が、RIにポリオ免疫接種事業を行ってくれるように、という手紙を出したのです。ポリオ予防ワクチンの必要性、国内外の諸機関の協力、ロータリアンおよびロータリークラブの協力などが考慮された結果、フィリピンでは、3-Hプログラムによる、最初の大規模免疫接種活動をするのに適切であると、認められました。その結果、1979年9月、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました。そして、この活動が、RIが取り組んだ最初のポリオ撲滅活動となったのです。

## RIの本格的取り組みに先駆けた日本の活動

1981年、第258地区(現、第2580地区)の東京麹町ロータリークラブ(RC)は「3-Hプログラム」の「インドはしか免疫プロジェクト」に参加した経験がありました。同クラブでは、クラブ設立15周年事業として1982-83年度、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して、子どもたちをポリオから救うことを計画したのです。

この計画は、第258地区と第275地区(現、第2750地区)の賛同を得て、2つの地区の世界社会奉仕(WCS)プロジェクトへと発展しました。ロータリー財団からは「すばらしい計画であり、感謝する」と評価されています。

## 「ポリオ2005」の誕生

1982年2月のRI理事会で、「ロータリークラブおよび地区が、保健、飢餓追放および人間尊重プログラム、世界社会奉仕計画、社会奉仕活動を通じて、世界中の子どもたちに伝染病に対する免疫接種を、適切な国際的、全国的、あるいは各地の保健機関と協力のもとに継続させることを奨励し、西暦2005年に国際ロータリーの100年祭を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」旨を決議しました。

これを受けて、1984－85年度、カルロス・カンセコ R I 会長（当時）は、この目標達成の方法をはかるポリオ2005委員会を任命、1984年11月の理事会で同委員会からのポリオに関する報告を受理、全世界的規模での R I のポリオ撲滅活動が動き出しました。

1985年2月、ロータリー創始80周年に当たって、R I は、ポリオ・プラス計画を発表しました。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5つの病気を指します。ポリオだけではなく、これらの病気も含め予防接種も実施することとなり、ポリオ・プラス計画と改称されたのです。

#### 目標を上回る募金を達成

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、日本ポリオ・プラス委員会により、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。各クラブや地区での取り組みのおかげで、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。R I では、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、日本では5年計画を立てました。結果的には、5年間で見込んでしっかりとスケジュールを組んでいた日本のキャンペーン活動は成功で、非常に高い実績を上げています。R I では、1988－89年度までの3年間で米貨2億4,700万ドルを集めました。これは目標額の2倍に相当します。

#### 多くの日本人がポリオワクチンを届ける

ロータリー財団では、WHOやUNICEFと綿密に連携し、集まった尊いお金をもとに、世界各地でポリオワクチンの投与を実施しています。しかしながら、ポリオワクチンの投与は、やさしいことではありません。宗教や紛争などの要因により、思うように事が運ばない場合も多々あります。ポリオワクチンを届けようとして、紛争に巻き込まれて亡くなった例もあります。

日本のロータリーとしては、1994年に非ロータリー国である中国で、ポリオワクチン一斉投与を実施しました。また、1995年、第2650地区（福井・滋賀・京都・奈良県）はWCS（世界社会奉仕）の活動の一環として、カンボジアでワクチン一斉投与を行いました。この時はロータリー財団から30万米ドル、地区からは10万米ドルを拠出しています。同地区では、この活動を皮切りに、幼児たちのためのワクチン一斉投与を、1996年モンゴル。1997年ネパール。1998年ラオス。1999年ベトナム。2000年中国／ミャンマー国境。2001年バヌアツ。2002年ミャンマー。2003年カンボジア。2004年ラオスで。今年2005年はパプアニューギニアでと、11年間にわたって活動を続けてきました。

その後、第2640地区、第2830地区など日本の多くの地区や、また、ロータリアンがポリオワクチンの投与のために多くの国々へ出かけています。

これらの中には、ローターアクター（ローターアクトクラブ会員）が、参加した例もあります。

#### 次々にポリオ撲滅宣言

最初にポリオの絶滅が宣言されたのは汎米（北・中・南米）地域。1994年のことでした。次いで、世界で2番目、2000年、WHOにより西太平洋地域での「ポリオ根絶宣言」が出されました。「西太平洋地域ポリオ根絶京都会議」－この輝かしい宣言は「京都宣言」として発表されています。この「京都宣言」が大きく報じられたために、日本のロータリアンの中には、ポリオは終わったとの誤解が生まれているようです。京都宣言に続き、2002年ヨーロッパ地域での撲滅宣言が出されていますが、これまで出された宣言は特定の地域での撲滅宣言であり、地球上すべての地域で、ポリオが撲滅されたわけではありません。

#### 約束を守ろう、ポリオをなくそう

100周年を記念して、2005年6月に開催されるシカゴ国際大会で、ポリオ撲滅宣言を出すために、国際ロータリーは、2002－03年度に「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に、「ポリオ撲滅募金キャンペーン」（PEFC）を実施しました。目標募金額は、8,000万米ドル。これには、現金、地区財団活動資金（DDF）、そして個人やクラブの3年間の誓約を含んでいます。

このR I の挑戦に呼応して、世界中の各クラブ、各地区では、活動を展開しています。日本では、2005年の6月までの3年間で目標を達成するよう活動を続けています。

## ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの資金提供

2007年11月26日国際ロータリーは、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ撲滅に必要とされる2億米ドルを投入することを発表しました。ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていきることになりました。2009年1月、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、国際ロータリーに対して、さらに2億5,500万ドルを寄付。国際ロータリーではこれを受けて、2012年までにさらに1億ドル、2007年11月にスタートしたものと合わせて億ドルの資金を集めることを表明しました。全世界のロータリアン（ロータリークラブ会員）は、「ロータリー2億ドルのチャレンジ」と称し、ポリオ撲滅のための資金集めをした結果、その6月を待たずに目標額達成しました。

ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、この功績に対し、さらに5000万ドルを国際ロータリーに寄付しました。

2013年6月、国際ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、ポリオの撲滅活動を支援するパートナーシップの拡大を発表しました。今後5年間、ロータリーがポリオ撲滅の寄せる寄付に対して、ゲイツ財団が2倍の額を上乗せするというものです（対象となる寄付額は各年3,500万ドルまで）。このパートナーシップを通じて、最高総額5億2,500万ドルの資金を確保できることとなります。

ロータリーがこれまでにポリオ撲滅活動で寄付した総額は、12億ドルに上ります。寄付金は、すべてポリオ感染国での予防接種活動に充てられます。

ロータリアンたちは、もちろんお金を集めていただけではありません。多くのロータリアンが道路もないようなへき地に分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子どもたちに届けるための活動もしています。紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、宗教上などの理由からポリオワクチンの投与を拒む人々を説得したり、さまざまな活動をしてきました。世界中のさまざまな地域にロータリークラブがあり、ロータリアンたちが活動をしています。それぞれの地域で、ロータリアンたちがさまざまな形で、すべての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

## 東南アジア地域での撲滅宣言

2014年3月27日、世界ポリオ撲滅計画（GPEI）は、WHO（世界保健機関）が東南アジア地域の国々でポリオが撲滅したことを祝いました。ポリオに終止符を打ち、そのことによって多くの利益がもたらされる、歴史的な出来事です。この地域の11か国（バングラデシュ、ブータン、北朝鮮、インド、インドネシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、スリランカ、タイ、東ティモール）には、約18億の人が住み、世界を6つに分けたWHOの地域で公式にポリオ撲滅が認められた4つ目の地域になります。かつてポリオの撲滅が最も難しいと考えられていたインドで2011年1月13日を最後に発症していないことが、この地域での撲滅宣言を可能にさせました。スリランカ、モルディブ、ブータンなどの国では、すでにポリオが撲滅されており、この日が来るのを15年以上待っていました。

これらの国々でポリオを撲滅するために築き上げられた優れたシステムは、現在、ほかの保健優先事項を推進するために使われています。バングラデシュでは、義務付けられているワクチン（ジフテリア、破傷風、百日ぜき）の接種率が、ポリオ撲滅活動を強化していた2000～2012年の間に82%から96%に上昇。ネパールでも74%から90%に上がりました。またポリオサーベイランス（調査監視）のネットワークを生かして、はしか、新生児破傷風、日本脳炎のような、ワクチンで予防可能な疾病の感染経路を追跡している国もあります。

東南アジア地域においてポリオ撲滅が達成できたのは、ワクチン投与キャンペーンを実施するという各国政府の前例のない取り組みのたまものです。キャンペーンでは、何百万人という地域の保健従事者やボランティアたちが、街の最もにぎやかな通りに面した家から、辺境の地にある家に至るまで、一軒一軒献身的に訪問し、ワクチンを受けた子どもの総数は、17年間で75億人に上りました。1995～2012年の間、ポリオプログラムは同地域のいたるところで189の全国的なキャンペーンを行い、130億ダースの経口ワクチンが投与されました。

同地域の撲滅の達成は、2018年までにポリオのない世界にするという世界ポリオ撲滅計画（GPEI）の目標への大きな一歩となりました。感染を阻止し、ワクチン投与率を上げ、子どもの死亡率に影響を及ぼす長期的な計画であるにもかかわらず、新しい取り組みや、新たなパートナーのおかげで世界的に前進しています。

## ポリオ撲滅活動の最終段階

ポリオの撲滅は99%達成しましたが、ロータリアンをはじめとする多くの人々の努力にもかかわらず、残念ながら、100%の撲滅宣言は出せずにいます。いまだ、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアではポリオが常在しております。アフガニスタンにおける内戦の悪化も挙げられます。パキスタンでは政情不安を抱え、国境を接しているアフガニスタンからウイルスが流入する恐れもあります。ナイジェリアでは、北部の州でワクチン投与が妨害されたために予定が大幅に遅れ、一度ポリオの撲滅を宣言した近隣諸国にポリオウイルスが再び広がりを見せています。

かつてR I 国際ポリオ・プラス委員会委員長であったウィリアム・サージェント氏は、『THE ROTARIAN』の編集者の「長い目で見たとき、ポリオ撲滅がもつ意味はどのようなもののでしょうか」という質問に対し、こう答えています。ポリオが「消滅すれば、発展途上国でほかの公衆保健事業に何億ドルもの投資ができます。発祥場所を正確に把握し、さまざまな病気群の存在を特定するために利用される研究所間のネットワークは、世界中で受け継がれています。また、世界は、歴史上最大規模の公衆衛生運動から貴重な教訓を得ることでしょう」と。

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』によれば、経口ポリオ・ワクチンの生みの親である故アルバート・セーピン博士はかつてロータリアンに、「1985年にポリオ・プラスを開始していなければ、ロータリー創立100周年の2005年にはポリオ患者が800万人に増加しており、おそらくその期間中に80万人がポリオで死亡していたことでしょう」と語っています。

ロータリアンが取り組んだポリオ撲滅活動によって、ポリオの発症例は大幅に減少しました。1988年世界ポリオ撲滅計画(GPEI)が発足した当時、ポリオで命を落としたり手足が不自由になったりする子どもは年間35万人いましたが、2013年には99.9%減少し、406件の発症が報告されるまでになりました。

でも、ロータリーが掲げた目標が達成されたわけではありません。100%ポリオが撲滅したという宣言を出すその日まで、ロータリアンとポリオの闘いが終わることはありません。